

# 京極読書新聞 <第8号>

発行日 平成21年11月1日(日)  
京極町生涯学習センター湧学館

## 平家物語を愉しむ —その2・『平家』世界と現代—

湧学館ボランティア 村山 功一 (むらやま・こういち)

『平家物語』は、今から約780年ほど前に成立したといわれています。そんな昔の古典『平家』の世界が、21世紀の今の私たちの暮らしのなかに残っている…と言うと、きっと驚くでしょう。

それは、たとえば小学校の運動会に、また年末恒例の、あるテレビ番組にみられます。もう分かりますネ。キーワードは「紅(赤)白」です。小学校の運動会では、赤組・白組に分かれて勝敗を競い、「紅白歌合戦」は女性赤組、男性白組で得点を競い合います。その他、何かの対抗戦では「紅白」に分かれることが多いのではないのでしょうか。これが、『平家』の名残なのです。つまり、源平それぞれの旗印の色が、源氏・白、平家・赤だったことに由来するのです。

その後「源平交代思想」が生まれ、後世の戦国武将たちは自らの家系を源平と結び付けました。たとえば、あの有名な織田信長は平家を名のり、家紋も平家と同じ揚羽蝶としているし、その家臣であった豊臣秀吉も平家を先祖としています。その後天下を治める徳川家康は、源氏を先祖としています。もちろんその家系の真偽は分かりませんが(かなりウソくさい)、天下人としての権威をはるか昔の源平に求めていることは興味深いことです。それほど源平合戦という史実のインパクトが強かったことなのでしょうが、そこには『平家物語』の存在が大きく作用していると思います。

ところで『平家物語』が描く世界が、現在に伝えている最も重要なものは、もちろん諸行無常・盛者必衰という永遠の真理でしょう。具体的にはこうした世界観のもとに形造られた、私たち日本人のアイデンティティともいえるべき、独自の「美意識」と「価値観」です。

私たちは堂々としたもの、潔いもの、健気なものに強く心惹かれます。「敦盛最期」に感動し、「扇的」的那須与一の悲壮な決意に心打たれる感情です。そして滅び行くものへの哀惜の情など、『平家物語』には、私たちの心の奥底に流れつづける日本人の美意識や価値観が凝縮されているのです。だからこそ、途中で消滅することなく、今に読み継がれているのでしょう。

古典を読むことは、確かに難しいこともあります。だから、「全訳」本で読むのも、もちろんいいでしょう。でも、ぜひ原文に挑戦してみてください。中学生であれば古語辞典を引きながら読めるはずです。

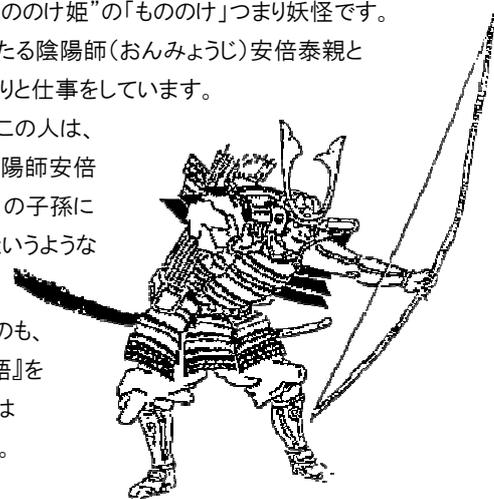
勇壮な合戦場面に心躍らせつつ、命を賭けて名を惜しみ、名誉を重んじる武士の姿に触れ、親子の情愛の深さに感動し、主従の固い絆に目を見張り、そして最愛の恋人や夫を失う女性たちの悲しみを思いやってみてください。そこに、今と変わらぬ何かを発見するでしょう。古典とは、単に古い書物ではありません。時空を越えて発見されるべき何かを、永遠に持ちつづける書物なのです。

さて、お待ちどうさま。最後に一つ。巻五「物怪(もつけ)の沙汰(さた)」には、ゲゲゲの鬼太郎も真つ青という妖怪が登場します。物怪は“もののけ姫”の“もののけ”つまり妖怪です。妖怪バスターたる陰陽師(おんみょうじ)安倍泰親という人もしっかりと仕事をしています。

清盛に仕えたこの人は、かの有名な陰陽師安倍晴明の五代目の子孫にあたります…というような

お話に出会うのも、また『平家物語』を読む楽しみではないでしょうか。

(完)



皆貝の腹巻姿  
(『結城合戦絵巻』より)



京極読書新聞は  
毎月1日発行です。



# 中学生にこの一冊!

## ◆北海道書店商業組合編「中学生はこれを読め!2」

タイトルからずばり!中学生のためのブックガイドの第2弾です。昨年12月に発行した“京極読書新聞”の創刊号で、札幌の書店から始まった「中学生はこれを読め!」というフェアと本について紹介しましたが、前回の本は発行が2006年ということもあり、ここ2~3年の本は載っていません。掲載本が一一新したこちらの本もぜひチェックしてみてくださいね。

## ◆西原理恵子「この世でいちばん大事な「カネ」の話」

自分の将来について考えるとき、避けては通れないお金の話。働いて、稼ぐということが何につながっていくのか。お金には魔力があるような気がします…。「最下位」には「最下位」なりの戦い方があると言うことばに、少し勇気がもらえました。

湧学館司書 向出 絵梨香(むこうで・えりか)

## ◆ジュリアス・レスター「私が売られた日」

アフリカの地で幸福に暮らしていた人々がある日突然、白い肌の人間に捕らえられ何日も暗く汚い船倉に閉じ込められて言葉も通じない見知らぬ土地に連れてこられます。ただ肌の色が黒いというだけで白人たちは彼らをまるで動物のように扱います。これはそうして連れてこられた人たちがアメリカで奴隷として売買された奴隷市を舞台に書かれた話です。

家族と引き裂かれて売られていく奴隷たち、彼らを物のように扱う農場主(白人)たち、自由を求め、命を賭して逃亡する者、奴隷としての運命を受け入れた日々を過ごす者、それぞれの人達のお話が語られていきます。

自由の国の象徴であるアメリカで150年前に実際にこのような事が行われていたのです。この本を読むと、私たちが何気なく使う“自由”という言葉の重さを感じます。

湧学館 打越 靖子(うちこし・やすこ)



## フラワーアレンジ基礎講座 開催のおしらせ

フラワーアレンジ基礎講座を開催します。生け花は剣山を使いますが、フラワーアレンジは吸水性のスポンジに花を挿して形を作ります。第1回と第2回は、基本的な形のアレンジを製作し、3回目にクリスマス用のリーススタイルを予定しています。経験がないし、あまり自信がない…と思われる方も大歓迎です。ちょっとした基本が身につくと、色々応用できますし、お花の世界が広がりますよ。

◎日程 11月18日(水)、11月27日(金)、12月9日(水)  
それぞれ19:00~20:30

◎参加費 各回 2,000円

◎定員 10名

その他、お問い合わせ・お申込みは湧学館(Tel42-2700)まで

## ～ 啄木をめぐるバスの旅 無事終了～



2009.10.17 小樽・水天宮歌碑

## 発行

京極町生涯学習センター湧学館  
〒044-0101 京極町字京極158番地1  
TEL 0136-42-2700(代表)  
FAX 0136-42-2032  
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください  
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

